

青山学院大学アカデミックライティングセンター

2023 年度 年次報告書

# 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 巻頭言 .....                      | 2  |
| <b>1.概要</b>                    |    |
| 1-1 開室状況 .....                 | 3  |
| 1-2 活動概要 .....                 | 3  |
| 1-3 運営組織 .....                 | 4  |
| 1-3-1 担当教員                     |    |
| 1-3-2 運営委員会                    |    |
| 1-3-3 実務委員会                    |    |
| 1-3-4 担当職員                     |    |
| 1-3-5 委員会                      |    |
| 1-3-6 予算                       |    |
| <b>2. 活動報告</b>                 |    |
| 2-1 活動報告にあたって .....            | 7  |
| 2-2 各業務の活動 .....               | 8  |
| 2-3 青山活動報告 .....               | 13 |
| 2-4 相模原活動報告 .....              | 21 |
| 2-5 教員の業績リスト .....             | 26 |
| <b>資料</b>                      |    |
| 青山学院大学アカデミックライティングセンター規則 ..... | 28 |

## 巻頭言

2017年に開設された青山学院大学アカデミックライティングセンター（AWC: Academic Writing Center）では、それ以来在学生のみなさん（学部生、大学院生、留学生）が、それぞれ自分自身の力で学術的なレポートや論文、高度な学位論文を書ける十分な力を身につけることを目標に、日本語と英語での対応で日々親身の支援をしてきました。コロナ禍での運営には大変な苦勞もありましたが、現在はほぼ対面での平常運営に戻り、多くの利用者がレポートや論文執筆の相談や指導を受けています。リピーター数が多いのは、AWCの学修サポートの高い信頼と評価の証しでしょう。

AWCでの支援の基本は、徹底した個人指導です。アカデミックライティング指導の専門教員による研修を受けた本学大学院生のチューターたちが、一人一人の学生さんのニーズに応じたきめ細かいサポートを行います。文章の誤りを直して整えるいわゆる添削指導は行わず、チューターたちが相談者一人一人の話に耳を傾け、話し合います。そして論じる題材や問題の設定の仕方、それに必要な知識の集め方、議論の構成の仕方、読む人にわかりやすく提示する技術などの、大学レベルのレポートや論文を書き上げるために必要な知識とスキルとを身に付けるための指導をします。チューターとの対話を通じては、利用者は文章を書く力だけではなく、自分の疑問を言葉にして話す力、口頭で説明をする力をも身につけるでしょう。

こうしたライティングの力は、卒業後も様々な場での社会的な活動で、企画や調査力の基盤になります。そしてなにより、どこでも誰に対してでも通用するコミュニケーション力の基盤そのものとなります。

日頃の教育・指導の実践を礎にして行われた研究活動の成果は、センター紀要『ライティング研究』に発表されます。本年は第3号が刊行されました。教員たちの実践の知を深める研究活動が、指導の現場を刺激してさらに活性化させてゆくことを期待しています。

実際のAWCの運営には事務方の職員の献身的なサポートが不可欠です。この『年次報告』に示された諸データは日常の活動を可視化して、成果と同時に問題点や課題を浮かび上がらせる重要な基礎資料ですが、職員の方々の裏方での活動の証しとも言えます。AWCに関わる教員と事務方のみなさまの全てに、そしてAWCを各所でご支援くださっている方々に、深く感謝を申し上げます。

他方で青山学院大学では、2024年度から全学の教職員組織の改組が実施されます。各部署では改組に伴う組織上の変更や改革なども予想されるところですが、既に教育成果と実績で確固たる定評を得て運営されてきたAWCの活動が、現在の目標からぶれずに、更に一層の発展をしていくことを願うものです。

2025年3月

アカデミックライティングセンター

センター長 伊達 直之（文学部教授・図書館長）

副センター長 升本 潔（地球社会共生学部・万代記念図書館長）

# 1. 概要

## 1-1 開室状況

|       |  |
|-------|--|
| 創設    | 2017年10月1日(日)  |
| 開室    | 青山キャンパス 2017年11月20日(月)<br>相模原キャンパス 2018年4月24日(火)   |
| 略称    | AWC(英語名称 Academic Writing Center の略)   |
| スタッフ  | 青山キャンパス 助教及びチューター<br>相模原キャンパス 助教及びチューター<br>※チューターとは学術的文章執筆と支援方法の専門研修受講後の本学大学院生のこと                          |
| 対象学生  | 青山学院大学の正規課程に在籍する学部生および大学院生   |
| 支援対象  | 日本語および英語の学術的文章   |
| 支援時間  | 1回につき45分間(昼休みセッション③の予約枠のみ30分間)   |
| 利用料金  | 無料   |
| 今年度開室 | 青山キャンパス, 相模原キャンパス<br>前期 2023年4月17日(月)~2023年7月31日(金)<br>後期 2023年9月18日(月)~2024年1月30日(火)                      |
| 開室日時  | 授業実施期間中の月曜日~金曜日 11時~18時  |
| セッション | ①11:00~11:45 ②11:45~12:30 ③12:40~13:10 ④13:20~14:05<br>⑤14:05~14:50 ⑥15:05~15:50 ⑦15:50~16:35 ⑧16:50~17:35 |
| 予約方法  | 青山学院大学 AWC の Web サイトから予約または来室にて予約  |

## 1-2 活動概要(文責:小林至道)

2023年度は大別して、(1)「セッション運営」、(2)「システム開発」、(3)「広報活動」、(4)「行事」、(5)「紀要」について、執り行った。(1)の「セッション運営」については、昨年度から継続して対面型とオンライン型の2形式でセッション(個別支援)を提供した。(2)の「システム開発」については、次年度からのシステムリプレイスに向けて、AWC予約システムおよびAWCウェブサイトの開発を行った。(3)のAWC利用促進のための「広報活動」としては、AWCウェブサイト、学生ポータル、デジタルサイネージ、A型看板、学内掲示板などを用いて、両キャンパスにおいて定期的・計画的に学生への周知を展開した。また、上述した次年度に向けてのシステムリプレイスと青山キャンパスにおける新図書館へのAWCの移転を見据えて、セッションの利用方法に関する改訂を中心としたリーフレット『2024年度AWC利用案内』、利用者向けのノベルティグッズとして2種類のクリアファイルを作製した。(4)のセッション利用促進の一環としての「行事」については、AWC利用ガイダンスやアカデミックライティングセミナー(全8回)の動画を、Course Powerを介しオンデマンド形式で、ほぼ通年にわたって提供した。(5)の「紀要」は、ラ

ライティング研究の成果発信の場として、昨年度の第2号に続き、AWC 紀要『ライティング研究』第3号を刊行した。

### 1-3 運営組織

#### 1-3-1 担当教員

|          |                    |
|----------|--------------------|
| センター長    | 伊達 直之 (図書館長)       |
| 副センター長   | 升本 潔 (万代記念図書館長)    |
| 助教 (青山)  | 小林 至道              |
| 助教 (青山)  | 綿貫 ゆり (2023.11.1～) |
| 助教 (相模原) | 嶋田 大海              |
| 助教 (相模原) | 永瀬 恵子 (～2024.3.31) |

#### 1-3-2 運営委員会

(1) センター長

伊達 直之 図書館長・文学部教授

(2) 副センター長

升本 潔 万代記念図書館長・地球社会共生学部教授

(3) コーディネーター

Boyd, James 国際政治経済学部准教授

森 幸穂 理工学部准教授

黒岩 裕 コミュニティ人間科学部教授

(4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者

小林 至道 アカデミックライティングセンター助教

嶋田 大海 アカデミックライティングセンター助教

永瀬 恵子 アカデミックライティングセンター助教 (～2024.3.31)

綿貫 ゆり アカデミックライティングセンター助教 (2023.11.1～)

(5) 本学教職員の中からセンター長が指名する者

DIAS, Joseph V. 文学部教授

宮澤 淳一 総合文化政策学部教授

菊池 尚代 地球社会共生学部教授

市川 昭裕 学術情報部図書課長 (～2023.5.31)

澤井 利恵子 学術情報部図書課長 (2023.6.1～)

(6) 学術情報部長

五十嵐 遣

(2024.3.31 現在)

### 1-3-3 実務委員会

(1) センター長

伊達 直之 図書館長・文学部教授

(2) 副センター長

升本 潔 万代記念図書館長・地球社会共生学部教授

(3) コーディネーター

Boyd, James 国際政治経済学部准教授

森 幸穂 理工学部准教授

黒岩 裕 コミュニティ人間科学部教授

(4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者

小林 至道 アカデミックライティングセンター助教

嶼田 大海 アカデミックライティングセンター助教

永瀬 恵子 アカデミックライティングセンター助教 (～2024.3.31)

綿貫 ゆり アカデミックライティングセンター助教 (2023.11.1～)

5) 学術情報部図書課長

市川 昭裕 (～2023.5.31)

澤井 利恵子 (2023.6.1～)

(6) 相模原事務部学術情報課長

鈴木 一巳 相模原事務部学術情報課 課長

(7) 本学の職員の中からセンター長が指名する者

澤井 利恵子 学術情報部図書課担当課長 (～2023.5.31)

田島 由香 相模原事務部学術情報課図書担当課長 (2023.6.1～)

(2024.3.31 現在)

### 1-3-4 担当職員

(青山)

五十嵐 遣 学術情報部長

市川 昭裕 学術情報部図書課長

澤井 利恵子 学術情報部図書課担当課長

西村 香 学術情報部図書課

吾妻 香織 学術情報部図書課 (委託職員)

(相模原)

鈴木 一巳 相模原事務部学術情報課長

田島 由香 相模原事務部学術情報課図書担当課長

岡田 里和 相模原事務部学術情報課

(2024.3.31 現在)

### 1-3-5 委員会

#### (1) 運営委員会

|                        |          |         |
|------------------------|----------|---------|
| 2023年4月27日(木)～5月12日(火) | 第1回運営委員会 | メール会議   |
| 5月24日(水)               | 第2回運営委員会 | オンライン会議 |
| 7月26日(水)               | 第3回運営委員会 |         |
| 12月23日(金)              | 第4回運営委員会 | オンライン会議 |
| 2024年1月6日(土)～11日(木)    | 第5回運営委員会 | メール会議   |
| 3月18日(月)               | 第6回運営委員会 | オンライン会議 |

#### (2) 実務委員会

|                     |          |         |
|---------------------|----------|---------|
| 2023年8月2日(火)～12日(金) | 第1回実務委員会 | メール会議   |
| 12月23日(金)           | 第2回実務委員会 | オンライン会議 |
| 2024年3月14日(火)       | 第3回実務委員会 | オンライン会議 |

### 1-3-6 予算

2023年度予算については、経常予算として申請し承認された。

予算額および執行額については以下の通りである。

単位：円

| 内容      | 予算額        | 執行額        |
|---------|------------|------------|
| チューター費用 | 6,213,000  | 6,213,000  |
| 業務委託費   | 7,898,000  | 7,898,000  |
| 研究経費    | 436,000    | 436,000    |
| 運営経費    | 1,230,000  | 1,230,000  |
| 計       | 15,777,000 | 15,777,000 |

(2024.3.31 現在)

## 2. 活動報告

### 2-1 活動報告にあたって

アカデミックライティングセンター（AWC）では、学生からの相談やチューターの研修などは、青山キャンパスと相模原キャンパスそれぞれで行っている、ただし、相談（セッション）の水準や研修の内容などはキャンパスによらず標準化をはかっており、相談受け付けなどのシステムも共通のものを使っている。普段の業務は、助教の教員たちが中心となり、職員・スタッフとともに担当している。なお、紀要については編集委員会を設け、委員長をコーディネーターの森先生にお願いしている。

以下では、セッション・研修、システム、出版・広報、行事・庶務という業務ごとに、今年度の活動について報告をする（2-2）。ただし、セッション・研修については、キャンパスごとの活動報告のなかであわせて扱っている（2-3, 2-4）。つづけて、助教の教員たちによる今年度の研究業績をリストアップしている（2-5）。また、資料としてAWCの規則を掲載している（3）。

## 2-2 各業務の活動

### 2-2-1 システム関連報告（文責：嶋田大海）

#### (1) AWC 新規予約システムの構築について

2023 年度の業者選定（株式会社富士通 Japan）を経て、2024 年 3 月より AWC 新規予約システムの構築に向けた検討を開始した。ライティング・センター運営に関わる利用者、チューター、運営管理者の三者の動きを同期的に繋ぐシステムである。

#### (2) システム構築の年間スケジュールについて

|                |                    |
|----------------|--------------------|
| 2023 年 3-4 月   | 機能要件確定義／インターフェイス設計 |
| 2023 年 5 月     | 詳細設計               |
| 2023 年 6-8 月   | カスタマイズ             |
| 2023 年 9 月     | 総合テスト              |
| 2023 年 11-12 月 | 運用テスト／運用マニュアルの作成   |

上述の年間スケジュールに沿って、以下の日程で富士通 Japan と大学側で打合せを実施した。ただ、スケジュール全体が押し、「運用テスト」及び最終検証は 2024 年 3 月までずれ込むかたちとなった。

|                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 2023 年 3 月 29 日  | AWC 予約システム打合せ（オンライン） |
| 2023 年 4 月 12 日  | 同上                   |
| 2023 年 4 月 26 日  | 同上                   |
| 2023 年 6 月 13 日  | 同上                   |
| 2023 年 7 月 4 日   | 同上                   |
| 2023 年 8 月 29 日  | 同上                   |
| 2023 年 11 月 14 日 | 同上                   |
| 2023 年 12 月 5 日  | 同上                   |
| 2023 年 12 月 19 日 | 同上                   |

上に挙げた日時以外にも、進捗確認の短時間の打合せを複数回実施した。また、開発の進捗は共有ファイル及びメールにて管理した。2024 年 3 月 28 日に旧システムから新システムに移行した。

#### (3) AWC ホームページの制作について

AWC 予約システムの構築に合わせ、新 AWC ホームページを株式会社富士通 Japan、株式会社三光通信との打合せのもと制作した。2023 年 7 月 18 日の打合せを受けて本格的な制作を開始し、メールベースで制作に関わる検討を重ねた。新しい機能として、予約システムと同期した混雑状況の表示や、スライド画像（リンク付き）の埋込みを行った。2024 年 3 月 28 日に旧ホームページから新ホームページに移行した。

AWC ホームページ URL : <https://www.agulin.aoyama.ac.jp/writingcenter/>

## 2-2-2 広報関連（文責：綿貫ゆり）

### (1) AWC グッズ

AWC 利用者およびセミナー参加者への配布用として、クリアフォルダー（両面フルカラー）を作成した。デザインは2種類（図1・2）で、18号館（マクレイ記念館）の外観写真（撮影：綿貫）とイラスト（黒岩先生）をそれぞれ1250枚ずつ（株）文祥堂に発注。

図1

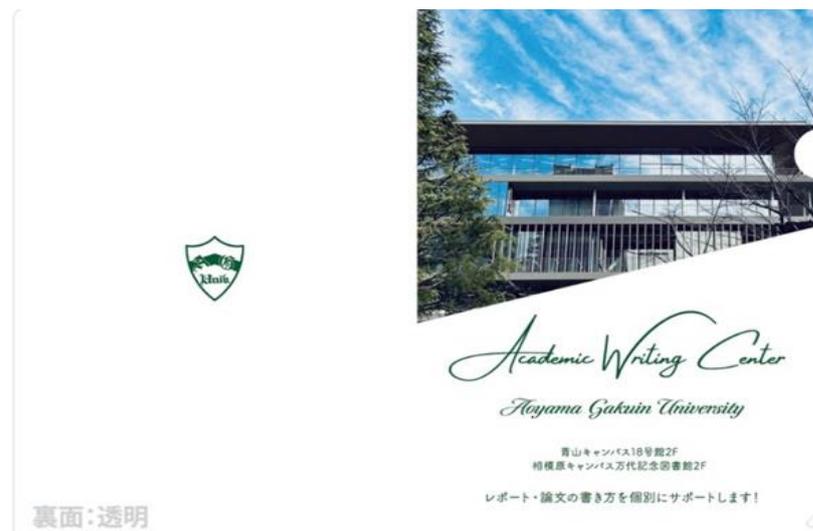
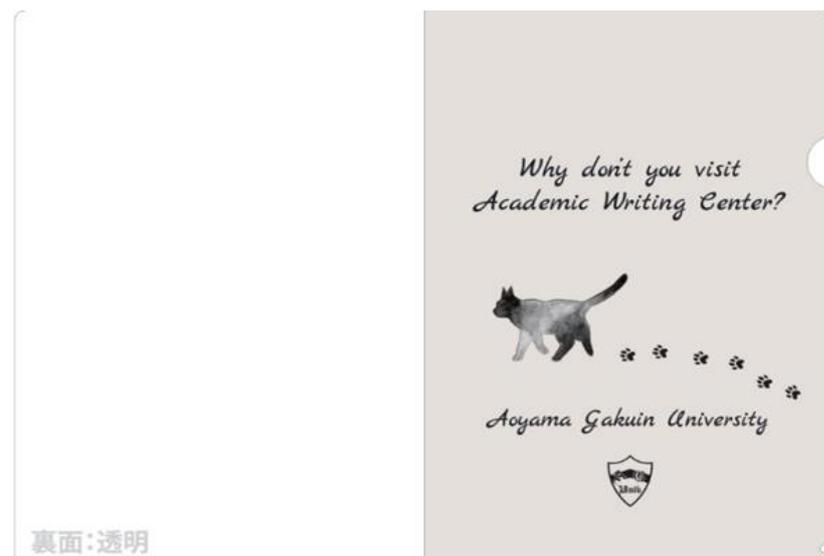


図2



## (2) AWC 利用案内

予約システムおよび AWC ホームページの移行に伴い、全体の構成は前年度までのものを踏襲しつつ、必要な情報・キャプチャーを更新・修正した 2024 年度 AWC 利用案内を製作した（図 3）。(株)パットンファイブに 8000 部を製作依頼し、納品後は年度初頭にて配布(学生および新教職員)し、保管用(資料センター等)を除き、学生数に鑑み昨年度と同様、相模原キャンパス：700 部・青山キャンパス：1320 部の振り分けでストックしている。

昨年度に引き続き、スチューデントセンター、国際交流センター、チャットルーム、学生生活課に置かせていただき、継続的に広報活動を行った。

図 3



### 2-2-3 紀要関連

紀要委員会（森委員長）にて、査読論文（書評）、寄稿論文を含む青山学院大学アカデミックライティングセンター紀要『ライティング研究』第3号として、2024年3月に出版した。

冊子体としては100部、またPDF版『ライティング研究』第3号についてはAWCホームページにて閲覧することができる。

## 2-2-4 行事関連（文責：小林至道）

### (1)両キャンパス共通アカデミックライティングセミナー（オンライン実施）

両キャンパスの学生（学部生，大学院生）を対象とし，アカデミックライティングセミナー動画（全8回）を，下表の通り，Course Power 上で提供した。

表1

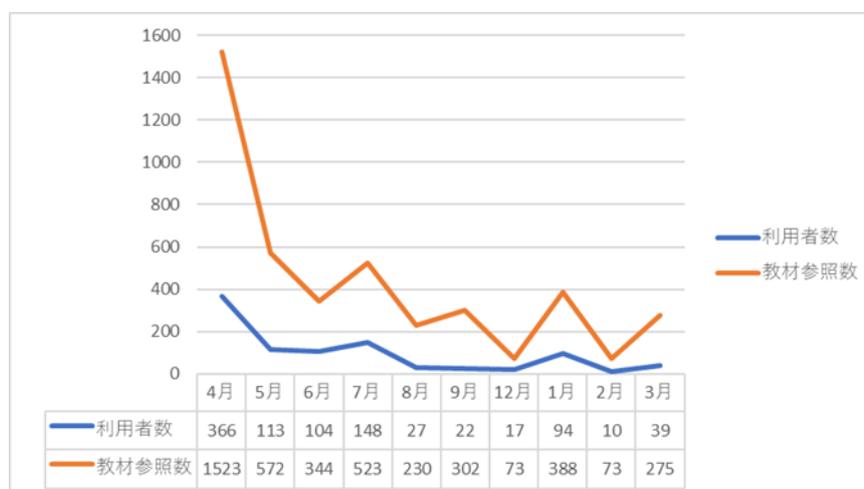
アカデミックライティングセミナーのプログラム

| セミナータイトル |                           |
|----------|---------------------------|
| 第1回      | アカデミックなレポート・論文とは何か？       |
| 第2回      | レポート・論文を書くための資料の探し方・読み方   |
| 第3回      | 本文への引用・参考文献一覧の書き方のルール     |
| 第4回      | 要点のまとめ方（ブックレポート・礼拝レポート対策） |
| 第5回      | 英語アカデミックライティングの基本         |
| 第6回      | 論文を書くための基本                |
| 理系向け①    | 実験ノートの書き方                 |
| 理系向け②    | 理系文章における文中・文末の参考文献の書き方    |

動画の提供期間は，2023年4月1日から9月30日まで，12月20日から3月31日までとした。同期間中の利用状況は，下図で示す通りであった。なお，ここでの「利用者数」とは動画にアクセスした人数（実数），「教材参照数」とは動画に関連する配布資料にアクセスした数（延べ）を指す。

図1

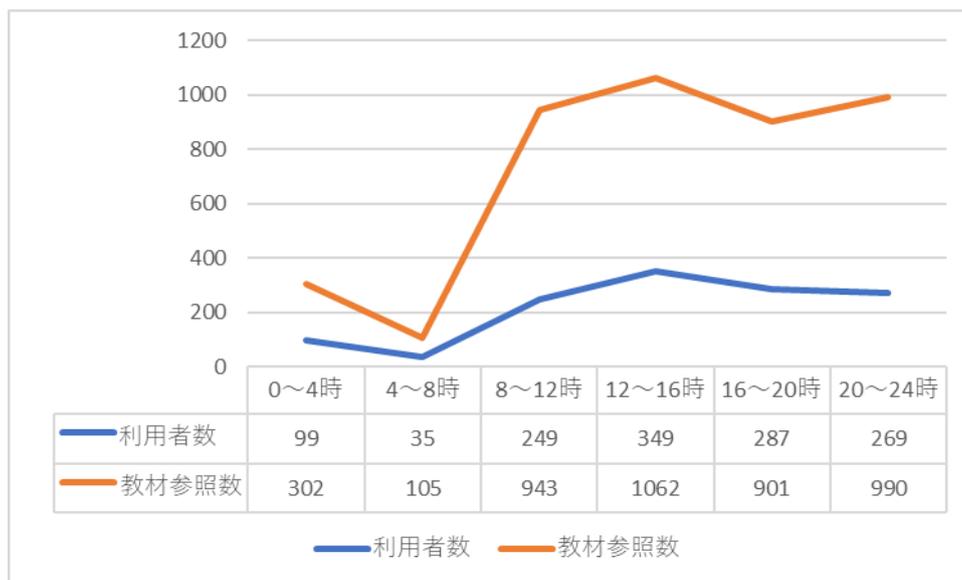
動画および教材参照状況（月別）



上図1では、月別の動画参照および教材参照数を示した。動画公開のスタート時期かつ年度初めの4月・5月、レポートや論文などの課題提出時期である7月・1月に、アクセス数が多かった。また、8月・9月・2月・3月といったAWCが閉室の期間中にも一定数のアクセスが見られたことから、オンデマンド形式で動画を展開する意義があったことがうかがえる。

図2

動画および教材参照状況（時間帯別）



上図2では、時間帯別の動画および教材参照数を示した。最もアクセスが多かった時間帯は12時から16時であった。正課授業外の時間帯、AWCでセッションが提供されていない時間帯（早朝、深夜帯など）に相当数のアクセスがあることから、いつでも・どこからでもアクセスできるオンデマンド形式で動画および関連教材を提供することによって、利用者の多様なニーズに応えられている様子を窺い知ることができる。

## (2)年度初頭オリエンテーション

### ① 青山キャンパス

2023年4月1日よりCourse Powerにて、オンデマンド形式でAWCの紹介動画（「アカデミックライティングセンター（AWC）ってどんなところ？」）を配信した。約20分でAWCとは何か、利用の仕方、場所についての説明を行った。Course Power上で新入生だけでなく、全学生が視聴可能とした。

### ② 相模原キャンパス

万代記念図書館のオリエンテーションと合同で新入生を主な対象としたオリエンテーションを開

催した。2023年4月3日（月）～10日（月）〈土日除く〉の12:40-13:10に、オンラインライブ配信にて実施した。図書館のオリエンテーション(20分)に続き、相模原AWCの紹介(10分)を行った。

## 2-3 青山活動報告（文責：小林至道）

### 2-3-1 活動概要

#### (1)活動日程・内容一覧

表1

青山 AWC 活動日程・内容

| 日程             | 内容                               |
|----------------|----------------------------------|
| <b>【2023年】</b> |                                  |
| 3月中旬～下旬        | 第12期新規チューター募集                    |
| 4月10日～6月7日     | 第12期新任チューター研修実施                  |
| 4月17日          | 前期セッション開始                        |
| 7月30日          | 前期セッション終了                        |
| 7月下旬～8月下旬      | 第14期新規チューター募集                    |
| 9月18日          | 後期セッション開始                        |
| 10月2日～12月8日    | 第13期新規チューター研修実施                  |
| 12月7日          | 授業連携アカデミックライティングセミナー・利用ガイダンス実施   |
| 12月23日～        | 冬季休業期間のためにセッション一時閉室（2024年1月8日まで） |
| <b>【2024年】</b> |                                  |
| 1月9日           | セッション再開                          |
| 1月22日～30日      | チューター活動振り返りミーティング実施              |
| 1月30日          | 後期セッション終了                        |

青山 AWC における活動日程は、上で整理した表1のとおりである。以下、青山 AWC の業務として活動した諸内容について、時系列に沿って報告する。

#### (2)第12期新任チューター研修実施

前期の新任チューター研修は、青山および相模原キャンパス合同形式で、次の通り行った。

- ・期間：2023年4月10日～6月7日（青山 AWC 所属チューターは、下表2、研修①から⑨まで）
- ・対象者：8名（そのうち、青山 AWC 所属チューターは2名：英米文、日文）

表2

2023年度前期新任チューター研修プログラム内容・実施スケジュール

| 内容                      | 実施者      | 実施日           |
|-------------------------|----------|---------------|
| 研修① オリエンテーション           | 小林・嶋田・永瀬 | 4月10日～11日     |
| 研修② アカデミックライティングの基本     | 小林・嶋田・永瀬 |               |
| 研修③ アカデミックライティング支援の基本   | 小林・嶋田・永瀬 | 4月12日～18日     |
| 研修④ セッション全体の流れを掴む       | 小林・嶋田・永瀬 | 4月19日～25日     |
| 研修⑤ 基本を振り返る模擬セッション      | 小林・嶋田・永瀬 | 5月1日～2日       |
| 研修⑥ 自身の専門に近い相談・遠い相談への対応 | 小林・嶋田・永瀬 | 5月8日～10日      |
| 研修⑦ 構想段階の相談への対応         | 小林・嶋田・永瀬 | 5月15日～17日、31日 |
| 研修⑧ 長い文章の相談への対応         | 小林・嶋田・永瀬 | 5月22日～24日     |
| 研修⑨ 英語の相談文章への対応         | 小林・嶋田    | 5月29日         |
| 研修⑩ 理系の相談文章への対応         | 小林・嶋田・永瀬 | 6月5日～7日       |

## (3)第13期新任チューター研修実施

後期の新任チューター研修は、青山および相模原キャンパス合同形式で、次の通り行った。

- ・期間：2023年10月2日～12月8日（青山AWC所属チューターは、下表3、研修①から⑧まで）
- ・対象者：5名（そのうち、青山AWC所属チューターは、1名：国際政治）

表3

2023年度後期新任チューター研修プログラム内容・実施スケジュール

| 内容                      | 実施者      | 実施日          |
|-------------------------|----------|--------------|
| 研修① オリエンテーション           | 小林・嶋田    | 10月2日～6日     |
| 研修② アカデミックライティングの基本     | 小林・嶋田    | 10月11日～13日   |
| 研修③ アカデミックライティング支援の基本   | 小林・嶋田    | 10月16日～20日   |
| 研修④ セッション全体の流れを掴む       | 小林・嶋田    | 10月23日～27日   |
| 研修⑤ 基本を振り返る模擬セッション      | 小林・嶋田・綿貫 | 10月30日～11月1日 |
| 研修⑥ 自身の専門に近い相談・遠い相談への対応 | 小林・嶋田・綿貫 | 11月10日～15日   |
| 研修⑦ 構想段階の相談への対応         | 小林・嶋田・綿貫 | 11月17日～21日   |
| 研修⑧ 長い文章の相談への対応         | 小林・嶋田・綿貫 | 11月27日～12月1日 |
| 研修⑨ 英語の相談文章への対応         | 小林・綿貫    | 11月24日       |
| 研修⑩ 理系の相談文章への対応         | 小林・嶋田・綿貫 | 12月4日～8日     |

#### (4)授業連携ライティングセミナー実施

AWCのセッション利用促進とアカデミックな文章(授業課題レポート・ゼミ論文)の書き方の理解を目的として、対面形式(教室)で、次の通り実施した。セミナー実施後から課題提出締め切りまでの間に、受講者の多くがAWCのセッションを利用した。

- ・実施日：2023年12月7日
- ・内容：「アカデミックな文章の書き方」
- ・対象：総合文化政策学科「文化基礎演習B」(飯笹ゼミ)の受講者17名

表4

#### 授業連携ライティングセミナー

| 実施日時                     | 授業担当教員                 | 授業名     | 受講者                | 課題提出締め切り日  | 実施者 |
|--------------------------|------------------------|---------|--------------------|------------|-----|
| 12月7日<br>13:20~14:50(3限) | 飯笹佐代子 教授<br>(総合文化政策学部) | 文化基礎演習B | 総合文化政策学科<br>2年生17名 | 2024年1月11日 | 小林  |

#### (5)チューター活動振り返りミーティング実施

現チューターは参加必須のミーティングとして、2023年度のチューター活動を振り返るためのミーティングを表5のとおり実施した。チューター個々の活動を振り返るとともに、AWC教員や他のチューターとのディスカッションを通して、AWCとしての支援方法、運営方法の共通理解を再確認することが目的である。活動を振り返る内容としては、(1)担当したセッションについて(4設問)、(2)新任チューター研修について(2設問)、(3)運営全般について(1設問)、の3つのテーマ(全7設問)に関して、グループディスカッション形式で行った。なお、体調不良等で不参加だったチューター2名には、後日、同様のテーマに関するワークシートの提出を課し、参加の代替とした。

表5

#### チューター活動振り返りミーティングの実実施スケジュール(チューター敬称略)

| 実施日時                  | 参加チューター     | 実施者 |
|-----------------------|-------------|-----|
| 2024年1月22日12:00~13:30 | 坂田・大槻・山本・保井 | 小林  |
| 2024年1月22日16:00~17:30 | 陳・天野・山崎・中川  | 小林  |
| 2024年1月26日12:00~13:30 | 武居・松本・劉     | 小林  |
| 2024年1月30日11:00~12:30 | 小林・千原・中野・宮口 | 小林  |

## 2-3-2 運営体制・利用実績

### (1)運営体制

2023年度のセッションは、対面およびオンライン（Webexシステム）で行った。開室期間は、前期が2023年4月17日から7月30日まで、後期が同年9月18日から2024年1月30日までであった。後期の開室期間のうち、2023年12月23日から2024年1月8日までは、大学が冬季休業期間（授業未実施期間）のため閉室とした（表1参照）。今年度の青山AWCのチューターは、下表6の通り、前期が18名（そのうち、新規採用者2名）、後期が19名（同1名）体制であった。

表6

チューターの体制（人）

| 担当言語   | 前期 | 後期 |
|--------|----|----|
| 日本語    | 13 | 14 |
| 英語・日本語 | 5  | 5  |
| 計      | 18 | 19 |

### (2)利用実績

2023年度の年間利用実績について、以下では、①月別、②学年別、③相談文章のタイプ別、④学科・専攻別に表形式で示した上、利用の特徴を整理する。

#### ① 月別

表7

月別の利用実績

|         | 4月    | 5月    | 6月    | 7月   | 前期合計  | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 後期合計 | 年間合計 |
|---------|-------|-------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 開室日数（日） | 8     | 20    | 22    | 21   | 71    | 10   | 15   | 15   | 16   | 15   | 71   | 142  |
| 前年度比    | -2    | 1     | 2     | 0    | 1     | 1    | -4   | -5   | -1   | -1   | -10  | -9   |
| 利用件数（件） | 19    | 69    | 134   | 211  | 433   | 24   | 49   | 50   | 78   | 110  | 311  | 744  |
| 前年度比    | -15   | -21   | 2     | 7    | -27   | -2   | 8    | -6   | 0    | 2    | 2    | -25  |
| 1日平均（件） | 2.4   | 3.5   | 6.1   | 10.1 | 6.1   | 2.4  | 3.3  | 3.3  | 4.9  | 7.3  | 4.4  | 5.2  |
| 前年度比    | -1    | -1.3  | -0.5  | 0.4  | -0.5  | -0.5 | 1.1  | 0.5  | 0.3  | 0.5  | 0.6  | 0.1  |
| 稼働率（%）  | 18.6  | 26.8  | 42.4  | 79.6 | 46.1  | 24.0 | 21.2 | 36.8 | 44.3 | 66.8 | 38.7 | 42.7 |
| 前年度比    | -20.5 | -26.1 | -18.2 | -3.7 | -17.8 | -6.2 | 0.7  | 12.7 | 7.7  | 16.1 | 6.0  | -3.3 |

※稼働率＝利用件数÷提供枠数で算出

上表7では、青山 AWC の利用状況について、月別、前期合計、後期合計、年間合計で示した。以下、2023 年度の利用実績について、前年度と比較しつつ、特徴を整理する。

まず、利用件数は、4月5月の利用件数が前年に比べ落ち込んだ一方で、6月7月の学期末では、微増ではあるが前年度に比べ増加した。後期の利用は前年度とほぼ変わらない傾向および件数で、年間トータルの利用件数は、前期のマイナス分がそのまま微減という結果であった。

次に、稼働率について見ていく。前期は、利用件数が落ち込んだ分がそのまま稼働率にも影響が出るかたちとなった。一方で後期は、開室日数が減り提供枠数が前年度に比べ減ったこともあり、11月と1月が前年度比で10ポイント以上増加、後期トータルで6ポイントの増加であった。年間トータルの稼働率は42.7%と好数値であったものの、前年度に比べ、3.3ポイント減少という結果となった。

## ② 学年別

表8

学年別の利用実績

| 学年          | 前期         |              | 後期         |              | 年間         |              |
|-------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|
|             | 件数         | 割合           | 件数         | 割合           | 件数         | 割合           |
| <b>1年生</b>  | <b>252</b> | <b>58.2%</b> | <b>104</b> | <b>33.4%</b> | <b>356</b> | <b>47.8%</b> |
| 前年度比        | -46        | -6.6%        | -6         | -2.2%        | -52        | -5.3%        |
| <b>2年生</b>  | <b>102</b> | <b>23.6%</b> | <b>72</b>  | <b>23.2%</b> | <b>174</b> | <b>23.4%</b> |
| 前年度比        | 5          | 2.5%         | -10        | -3.2%        | -5         | 0.1%         |
| <b>3年生</b>  | <b>50</b>  | <b>11.5%</b> | <b>31</b>  | <b>10.0%</b> | <b>81</b>  | <b>10.9%</b> |
| 前年度比        | 23         | 5.6%         | -2         | -0.7%        | 21         | 3.1%         |
| <b>4年生</b>  | <b>17</b>  | <b>3.9%</b>  | <b>88</b>  | <b>28.3%</b> | <b>105</b> | <b>14.1%</b> |
| 前年度比        | -1         | 0.0%         | 10         | 3.1%         | 9          | 1.6%         |
| <b>大学院生</b> | <b>12</b>  | <b>2.8%</b>  | <b>16</b>  | <b>5.1%</b>  | <b>28</b>  | <b>3.8%</b>  |
| 前年度比        | -8         | -1.5%        | 10         | 3.2%         | 2          | 0.4%         |

上表8では、学年別に前期、後期、年間の利用実績を示した。以下では、前年度と比較しつつ、

今年度の利用の特徴を整理する。2023年度は、低学年（1年生と2年生）の利用件数が相対的に減少した一方で、大学院生を含めた高学年（3年生と4年生）の利用が微増した点に特徴が見られる。次の③で検討する「相談文章のタイプ」と合わせて利用傾向を分析すると、前年度に比べ、1・2年生のレポートの相談が相対的に減少し、3年生以上の論文の相談が増加したとみることができる。とはいえ、年間トータルの利用件数と割合に示されている通り、AWC開設当初から、青山AWCの利用の中心が1年生のレポートであることは変わりのない傾向である。

### ③ 相談文章のタイプ別

表9

相談文章タイプ別の利用実績

| 相談文章のタイプ  | 利用件数       | 前年度比 | 割合           | 前年度比  |
|-----------|------------|------|--------------|-------|
| レポート（日本語） | <b>449</b> | -54  | <b>60.3%</b> | -5.1% |
| レポート（英語）  | <b>29</b>  | -30  | <b>3.9%</b>  | -3.8% |
| 論文（日本語）   | <b>128</b> | 25   | <b>17.2%</b> | 3.8%  |
| 論文（英語）    | <b>32</b>  | 17   | <b>4.3%</b>  | 2.3%  |
| 発表資料（日本語） | <b>35</b>  | 12   | <b>4.7%</b>  | 1.7%  |
| 発表資料（英語）  | <b>4</b>   | 0    | <b>0.5%</b>  | 0.0%  |
| その他（日本語）  | <b>57</b>  | 9    | <b>7.7%</b>  | 1.5%  |
| その他（英語）   | <b>10</b>  | -4   | <b>1.3%</b>  | -0.5% |

上表9では、相談文章のタイプ別に利用実績を示した。前年度と比較した2023年度の特徴としては、レポートの相談が減り、論文の相談が増えたといえる。なお、「その他」の相談の具体例としては、「留学の志望理由書」、国内外の大学院進学のための「研究計画書」などが挙げられる。これらは、レポート・論文以外のアカデミックな文章相談事例として、年々、増加傾向にある。

④ 学科・専攻別

表 10

学科・専攻別の利用実績 (N=744)

| 【学科】          | 利用件数 | 前年度比 | 割合    | 前年度比  |
|---------------|------|------|-------|-------|
| 英米文学科         | 97   | 4    | 13.0% | -0.9% |
| フランス文学科       | 7    | -40  | 0.9%  | -5.2% |
| 日本文学科         | 83   | -30  | 11.2% | -3.5% |
| 史学科           | 44   | 20   | 5.9%  | 2.8%  |
| 比較芸術学科        | 8    | 4    | 1.1%  | 0.6%  |
| 教育学科          | 102  | 50   | 13.7% | 6.9%  |
| 心理学科          | 44   | 21   | 5.9%  | 2.9%  |
| 経済学科          | 13   | -9   | 1.7%  | -1.2% |
| 現代経済デザイン学科    | 10   | -5   | 1.3%  | -0.7% |
| 法学科           | 61   | -46  | 8.2%  | -5.7% |
| ヒューマンライツ学科    | 83   | 35   | 11.2% | 5.0%  |
| 経営学科          | 23   | 0    | 3.1%  | -0.1% |
| マーケティング学科     | 13   | 7    | 1.7%  | 0.9%  |
| 国際政治学科        | 40   | -28  | 5.4%  | -3.4% |
| 国際経済学科        | 5    | -2   | 0.7%  | -0.2% |
| 国際コミュニケーション学科 | 34   | 18   | 4.6%  | 2.5%  |
| 総合文化政策学科      | 35   | -17  | 4.7%  | -2.1% |
| 社会情報学科        | 1    | -7   | 0.1%  | -0.9% |
| 地球社会共生学科      | 2    | -8   | 0.3%  | -1.1% |
| コミュニティ人間科学科   | 1    | -3   | 0.1%  | -0.4% |
| 経営システム工学科     | 1    | 1    | 0.1%  | 0.1%  |
| 交換留学生         | 5    | 5    | 0.7%  | 0.7%  |
| 科目等履修生        | 4    | 4    | 0.5%  | 0.5%  |

| 【専攻】          | 利用件数 | 前年度比 | 割合   | 前年度比  |
|---------------|------|------|------|-------|
| 比較芸術学専攻       | 1    | 1    | 0.1% | 0.1%  |
| 心理学専攻         | 1    | 1    | 0.1% | 0.1%  |
| 経済学専攻         | 0    | -1   | 0.0% | -0.1% |
| 経営学専攻         | 1    | -2   | 0.1% | -0.3% |
| 国際政治学専攻       | 0    | -1   | 0.0% | -0.2% |
| 国際コミュニケーション専攻 | 5    | 3    | 0.7% | 0.4%  |
| 文化創造マネジメント専攻  | 0    | -1   | 0.0% | -0.1% |
| 国際マネジメント専攻    | 12   | 0    | 1.6% | 0.0%  |
| 会計プロフェッション専攻  | 7    | 5    | 0.9% | 0.6%  |
| 社会情報学専攻       | 1    | 1    | 0.1% | 0.1%  |

上表 10 では、学科および専攻別の利用実績を示した。2023 年度の特徴としてまず、青山キャンパス所属の全学科（表 10 の英米文学科から総合文化政策学科まで 17 学科）の学生の利用があった点を挙げるができる。これは通年でセッションを開設するようになった 2018 年度以降、コロナ禍の 2020 年度、2021 年度を除き、一貫して続く傾向であるが、特定の学科の利用に偏ることなく、広く普及していることがうかがえる。

前年度との比較において見えてくる特徴として、例えば、フランス文学科や教育学科のように、利用の増減が大きい学科がいくつか見られる。この背景要因としては、年間を通して複数回利用することになる学生がどの学科所属なのか、に左右されがちということがある。大学院の「専攻別」の利用の特徴としては、国際マネジメント専攻など留学生が多い専攻で、論文の相談ばかりではなく、「レポート」の相談利用が一定数ある点が挙げられる。

## 2-4 相模原活動報告（文責：嶋田大海）

### 2-4-1 チューター体制

日本語セッション担当者：前期：20名 後期：23名

日英両セッション担当者：前期：3名 後期：5名

### 2-4-2 チューター研修

〈前期 対象チューター：4名〉

研修1 オリエンテーション &

研修2 アカデミック・ライティングの基礎

実施日：4月10日／4月11日

研修3 アカデミック・ライティング支援の基本

実施日：4月12日／4月13日／4月18日

研修4 セッション全体の流れをつかむ

実施日：4月19日／4月24日／4月25日

研修5 基本を振り返る模擬セッション

実施日：5月1日／5月2日

研修6 専門に近い・遠い相談への対応

実施日：5月8日／5月9日／5月10日

研修7 構想段階の相談への対応

実施日：5月15日／5月16日／5月17日

研修8 長い文章の相談への対応

実施日：5月22日／5月23日／5月24日

研修9 英語相談対応者研修

実施日：5月29日

研修10 理系文章の相談への対応

実施日：6月5日／6月6日／6月7日

〈後期 対象チューター：4名〉

研修1 オリエンテーション

実施日：10月2日／10月6日

研修2 アカデミック・ライティングの基礎

実施日：10月11日／10月13日

研修3 アカデミック・ライティング支援の基本

実施日：10月16日／10月20日

研修4 セッション全体の流れをつかむ

実施日：10月23日／10月27日

- 研修5 基本を振り返る模擬セッション  
実施日：10月30日／10月31日／11月1日
- 研修6 専門に近い・遠い相談への対応  
実施日：11月10日／11月13日／11月15日
- 研修7 構想段階の相談への対応  
実施日：11月17日／11月20日／11月21日
- 研修8 長い文章の相談への対応  
実施日：11月27日／11月28日／12月1日
- 研修9 英語相談対応者研修  
実施日：12月4日／12月8日
- 研修10 理系文章の相談への対応  
実施日：11月24日

### 2-4-3 2023年度の利用実績

集計期間：4月17日（月）～1月30日（火）

相談形式：対面およびオンライン

|             | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 9月   | 10月  | 11月   | 12月  | 1月   | 合計    |
|-------------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|-------|
| 開室日数（日）     | 10    | 18    | 22    | 15    | 10   | 20   | 14    | 16   | 13   | 138   |
| 受入枠数*（枠）    | 65    | 125   | 226   | 150   | 107  | 210  | 136   | 183  | 153  | 1355  |
| 利用件数**（件）   | 29    | 48    | 49    | 78    | 6    | 11   | 18    | 18   | 9    | 266   |
| 内オンライン相談（件） | 0     | 3     | 0     | 8     | 0    | 0    | 0     | 0    | 2    | 13    |
| 稼働率         | 44.6% | 38.4% | 21.7% | 52.0% | 5.6% | 5.2% | 13.2% | 9.8% | 5.9% | 19.6% |

\*受入枠数：チューターがシフトに入った枠数

\*\*利用件数：チューターが支援を行ったセッション数

#### (1) 学科・研究科別利用件数

| 学部・学科・研究科    |                  | 前期          | 後期  | 合計 |    |
|--------------|------------------|-------------|-----|----|----|
| 大学           | 理工学部             | 化学・生命科学科    | 9   | 2  | 11 |
|              |                  | 電気電子工学科     | 3   | 4  | 7  |
|              |                  | 機械創造工学科     | 3   | 0  | 3  |
|              |                  | 経営システム工学科   | 1   | 1  | 2  |
|              |                  | 情報テクノロジー学科  | 10  | 2  | 12 |
|              |                  | 物理科学科       | 11  | 1  | 12 |
|              |                  | 数理サイエンス学科   | 1   | 0  | 1  |
|              |                  | 社会情報学科      | 59  | 19 | 78 |
|              |                  | 地球社会共生学科    | 47  | 4  | 51 |
|              |                  | コミュニティ人間科学科 | 51  | 21 | 72 |
| 青山キャンパス所属の学部 | 9                | 7           | 16  |    |    |
| 大学院          | 博士前期・修士 理工学 専攻   | 0           | 1   | 1  |    |
|              | 博士後期・一貫制博士 理工学専攻 | 0           | 0   | 0  |    |
|              | 博士前期・修士 社会情報学 専攻 | 0           | 0   | 0  |    |
| 合計           | 204              | 62          | 266 |    |    |

## (2) 学年別利用件数

| 学年  | 前期  | 後期 | 合計  |
|-----|-----|----|-----|
| 1年生 | 162 | 16 | 178 |
| 2年生 | 21  | 15 | 36  |
| 3年生 | 16  | 6  | 22  |
| 4年生 | 5   | 24 | 29  |
| M1  | 0   | 1  | 1   |
| M2  | 0   | 0  | 0   |
| D1  | 0   | 0  | 0   |
| 合計  | 204 | 62 | 266 |

## (3) 相談文書

| 相談文章の種類 (複数回答可)           | 前期  | 後期 | 合計  | 割合    |
|---------------------------|-----|----|-----|-------|
| 授業でのレポート・ライティング課題 (日本語)   | 156 | 17 | 173 | 70.3% |
| 授業でのレポート・ライティング課題 (英語)    | 7   | 2  | 9   | 3.7%  |
| 授業での実験レポート (日本語)          | 8   | 1  | 9   | 3.7%  |
| 授業での発表資料 (レジュメ・PPT) (日本語) | 3   | 5  | 8   | 3.3%  |
| 授業での発表資料 (レジュメ・PPT) (英語)  | 2   | 0  | 2   | 0.8%  |
| 学会発表の要旨 (日本語)             | 0   | 4  | 4   | 1.6%  |
| 学会発表の要旨 (英語)              | 0   | 1  | 1   | 0.4%  |
| 学会発表プレゼンテーション (日本語)       | 0   | 0  | 0   | 0.0%  |
| 学会発表プレゼンテーション (英語)        | 0   | 0  | 0   | 0.0%  |
| 学術論文 (投稿用) (日本語)          | 0   | 0  | 0   | 0.0%  |
| 学術論文 (投稿用) (英語)           | 0   | 0  | 0   | 0.0%  |
| 卒業論文 (日本語)                | 2   | 17 | 19  | 7.7%  |
| その他 (日本語) *               | 9   | 10 | 19  | 7.7%  |
| その他 (英語) **               | 2   | 0  | 2   | 0.8%  |
| 合計                        |     |    | 246 | 100%  |

\*その他 (日本語) の内訳：研究計画書、編入の志望理由書、ゼミの志望理由書、リアクションペーパー

\*\*その他 (英語) の内訳：留学志望書

## (4) 言語別利用件数

| 言語  | 前期  | 後期 | 合計  |
|-----|-----|----|-----|
| 日本語 | 191 | 59 | 250 |
| 英語  | 13  | 3  | 16  |

### (5) 利用動機

| 利用動機（複数回答可・任意回答）                    | 前期  | 後期 | 合計  | 割合    |
|-------------------------------------|-----|----|-----|-------|
| 授業・研究室・ゼミ担当教員からの指示・紹介               | 23  | 14 | 37  | 21.0% |
| ライティングスキルアップのため自主的に<br>以前利用して良かったので | 46  | 9  | 55  | 31.3% |
| 学内のチラシ・掲示板を見て<br>友人から聞いて            | 68  | 14 | 82  | 46.6% |
| AWCのガイダンス、公開セミナーを受けて                | 27  | 8  | 35  | 19.9% |
| AWCや図書館などのホームページを見て                 | 16  | 6  | 22  | 12.5% |
| 図書館カウンターからの案内で                      | 16  | 0  | 16  | 9.1%  |
| その他                                 | 20  | 2  | 22  | 12.5% |
| 合計                                  | 5   | 0  | 5   | 2.8%  |
| 合計                                  | 4   | 4  | 8   | 4.5%  |
| 合計                                  | 225 | 57 | 282 | 100%  |

### (6) 最も相談したい点

| 最も相談したい点（任意回答）     | 前期 | 後期 | 合計  | 割合    |
|--------------------|----|----|-----|-------|
| 文章の構成・展開           | 90 | 25 | 115 | 50.7% |
| 文章表現・文法・語法         | 8  | 5  | 13  | 5.7%  |
| 本文引用の方法・参考文献一覧の書き方 | 13 | 3  | 16  | 7.0%  |
| 情報検索の仕方            | 3  | 2  | 5   | 2.2%  |
| 課題のテーマ、条件に沿えているか   | 31 | 2  | 33  | 14.5% |
| 図表の作成・確認           | 1  | 1  | 2   | 0.9%  |
| 提出前の推敲             | 33 | 10 | 43  | 18.9% |
| 合計                 |    |    | 227 | 100%  |

## (7) 支援内容

| 支援内容（複数回答可）  | 前期  | 後期  | 合計  | 割合    |
|--|-----|-----|-----|-------|
| 課題内容を理解・把握できているか   | 79  | 12  | 91  | 12.3% |
| ブレインストーミング   | 48  | 15  | 63  | 8.5%  |
| 情報・文献検索の仕方（キーワードの提示含む）   | 16  | 8   | 24  | 3.2%  |
| 形式の確認（フォント・インデント・レイアウト・文字数など）                                      | 19  | 3   | 22  | 3.0%  |
| 全体的な文章の構成（序論・本論・結論の構成含む）   | 98  | 32  | 130 | 17.6% |
| 段落の構成（段落の作り方・Thesis statement・Topic sentence・Supporting sentence等） | 12  | 4   | 16  | 2.2%  |
| 文章の論理的展開①（主張の整理・文章内の情報整理）  | 59  | 16  | 75  | 10.1% |
| 文章の論理的展開②（問いと答えの呼応関係）  | 17  | 4   | 21  | 2.8%  |
| 文献引用の仕方（出典明記・一覧の書き方・文中での引用文の提示の仕方）                                 | 66  | 12  | 78  | 10.5% |
| 序論の書き方   | 19  | 11  | 30  | 4.1%  |
| 方法の書き方   | 2   | 4   | 6   | 0.8%  |
| 結果の書き方   | 7   | 7   | 14  | 1.9%  |
| グラフ・図表について（挿入の仕方・キャプション）   | 25  | 4   | 29  | 3.9%  |
| 考察の仕方・書き方  | 18  | 8   | 26  | 3.5%  |
| 発表資料・スライドの構成（ポスター・PPT含む）   | 4   | 3   | 7   | 0.9%  |
| 文章全体の推敲（タイトルの検討含む）   | 37  | 13  | 50  | 6.8%  |
| 誤字・脱字の確認   | 9   | 7   | 16  | 2.2%  |
| 文章表現の確認（日本語または英語の文法含む）   | 19  | 9   | 28  | 3.8%  |
| 課題提出までのスケジュールの提案   | 6   | 6   | 12  | 1.6%  |
| その他  | 2   | 0   | 2   | 0.3%  |
| 合計   | 562 | 178 |     | 100%  |

### 2-4-4 AWC ガイダンスの実施（於：AWC 横 多目的エリア）

授業担当教員からの依頼を受け、AWC 横の多目的エリアにて卒業論文の書き方についてのガイダンスを実施した。チューター2名に協力を依頼し、当日は卒論執筆の体験談や支援例の紹介を担当してもらった。

| 実施日時                    | 授業担当教員  | 授業名    | 受講者        | 場所             | 実施者         |
|-------------------------|---------|--------|------------|----------------|-------------|
| 7月13日（木）<br>16:50-18:00 | 秋富 創 先生 | 卒業研究 I | 4年生<br>10名 | AWC横<br>多目的エリア | 嶋田, チューター2名 |

## 2-5 教員の業績

### 1. 小林至道

#### (1) 論文（査読付き）

嶋田大海・小林至道・中竹真依子「ライティング・センターにおけるオンライン型支援の特徴－相談者およびチューターに対する調査に基づく質的分析」『大学教育学会誌』第45巻第1号，pp. 169－179，2023年6月.

#### (2) 学会発表

中竹真依子・小林至道・嶋田大海「ライティング・センターの継続的利用者が書く英文の質的変容プロセス」5th International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking 2024，2024年2月16日，於：名古屋大学.

#### (3) 講演

小林至道「上智大学図書館主催 教えて！レポートの書き方（基本編）」2023年5月25日，於：上智大学中央図書館.

小林至道「上智大学図書館主催 教えて！レポートの書き方（実践編）」2023年6月1日，於：上智大学中央図書館.

小林至道「大学のレポートを書けるようになるための講座」2023年6月8日，於：愛知大学名古屋キャンパスラーニングコモンズ.

小林至道「千葉商科大学 学修アドバイザー新人スタッフ研修」2024年3月25日，於：丸善雄松堂本社.

#### (4) 共同研究・競争的資金等の研究課題

AOYAMA VISION（研究代表：稲積宏誠）「全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築」

## 2. 嶋田大海

### (1) 論文

嶋田大海・小林至道・中竹真依子 (2023) 「ライティング・センターにおけるオンライン型支援の特徴—相談者およびチューターに対する調査に基づく質的分析—」『大学教育学会誌』第 45 巻、1 号、pp.169-179.

### (2) 学会発表

中竹真依子・小林至道・嶋田大海 (2024 年 2 月 16 日) 「ライティング・センターの継続的利用者が書く英文の質的変容プロセス」5th International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking

### (3) 共同研究・競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業〈研究代表者〉

「学術的文章作成における大学生の意見構築」

AOYAMA VISION プロジェクト「全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築」

〈研究代表：稲積宏誠〉

## 3. 綿貫ゆり

### (1) 論文

綿貫ゆり「暗い谷間」における「抵抗」言説—荒正人—『歴史学研究』第 1033 号(2023 年 2 月) pp.45～60

### (2) 講演

綿貫ゆり「レポート作成セミナー発展編『読むことについて』」2023 年 1 月 17 日、於：千葉大学附属図書館

綿貫ゆり「レポート作成セミナー『わかりやすい文章に必要な 10 のこと』」2023 年 5 月 16 日、於：千葉大学附属図書館

綿貫ゆり「レポート作成セミナー発展編『読むことについて』」2023 年 5 月 16 日、於：千葉大学附属図書館

綿貫ゆり「『読む』ことについて 課題・レポートを自分の学びに活かす方法」2023 年 5 月 30 日、於：千葉大学附属図書館

### (3) 教育活動

千葉大学、「社会思想史Ⅱ」(後期)

○青山学院大学アカデミックライティングセンター規則

(2017年5月25日理事会承認)

改正 2018年6月18日 2019年3月28日

2021年1月28日

(趣旨)

第1条 この規則は、青山学院大学(以下「本学」という。)の図書館にアカデミックライティングセンター(以下「センター」という。)を置き、その事業、組織、運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センターの目的)

第2条 センターは、アカデミックライティングに係る指導及び教育(以下「アカデミックライティング教育」という。)を実施することにより、学生のコミュニケーション能力、論理的思考力及び日本語、英語その他の言語によるアカデミックライティング能力の育成及び向上を支援し、アカデミックマナー及びアカデミックリテラシーを有する学生の育成に資することを目的とする。

(センターの事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) センターの目的を達成するための調査及び情報収集並びに企画立案
- (2) アカデミックライティング能力の向上のための日本語、英語等に係るセッションその他の学習支援
- (3) アカデミックライティングに関する調査及び研究
- (4) センターの活動に関する成果の発表
- (5) 前各号に規定するもののほか、センターの目的達成に必要な事業

(センターの組織)

第4条 センターにセンター長1名を置く。

2 センターに副センター長1名を置く。

3 センターにコーディネーター若干名を置く。

4 センターに助教及び助手若干名を置く。

5 センターの運営等に係る重要事項を審議するため、センターにアカデミックライティングセンター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

6 センターの運営等に必要事項を検討するため、運営委員会の下にアカデミックライティングセンター実務委員会(以下「実務委員会」という。)を置く。

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

2 センター長は、図書館長をもって充てる。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代理する。

2 前項に規定するもののほか、センター長が、必要があると認める場合は、副センター長にその職務の一部を委任することができる。

3 副センター長は、万代記念図書館分館長をもって充てる。

(コーディネーター)

第7条 コーディネーターは、センター長がアカデミックライティング教育に携わる本学の専任教員(センターの助教及び助手を除く。)の中から、候補者を推薦し、運営委員会の審議を経て、学長が委嘱する。

2 コーディネーターは、センター長及び副センター長を補佐し、その職務は、次のとおりとする。

(1) アカデミックライティング教育に係る情報収集及びその発信に係る支援

(2) アカデミックライティング教育の機会提供に係る支援

(3) アカデミックライティング教育における相談対応に係る支援

(4) アカデミックライティング教育における本学と外部機関との連携及びネットワーク構築に係る支援

(5) アカデミックライティング教育に係る記録及び統計資料の作成に係る支援

(6) 前各号に規定するもののほか、センター長がセンターの目的を達成するために必要があると認めた業務

3 コーディネーターの任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 コーディネーターは、再任されることができる。

(センター助教)

第8条 センターの助教(以下「センター助教」という。)は、学校法人青山学院助教に関する就業規則(以下「助教に関する就業規則」という。)の定めるところにより雇用され、センターに所属する本学の専任教員とする。

2 センター助教は、本学のいずれかの学部又は専門職大学院研究科(以下「学部等」という。)に所属する。

(センター助教の職務)

第9条 助教に関する就業規則第4条第4項の規定によるセンター助教の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

(1) 第3条に規定するセンターの事業に係る業務

(2) 前号に規定するもののほか、センター長が必要と認めた業務

(センター助教の資格)

第10条 センター助教は、助教に関する就業規則第5条第1項の規定により、青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則(以下「専任教員任用昇任規則」という。)第2条第4項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

2 前項に規定するもののほか、助教に関する就業規則第5条第2項の規定によるセンター助教の資格は、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する者とする。

(センター助教の雇用手続)

第11条 センター助教の雇用は、次項から第5項までの規定による。

2 センター長は、センター助教の候補者の雇用が適当であると認めたときは、運営委員会の審議を経て、学長に、センター長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。

3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。この場合において、前項の候補者が雇用された場合の分属学部等について、併せて付議する。

4 前項の学部長会において、候補者を雇用することが可とされ、かつ、その分属学部等が決定した場合の当該候補者の雇用の決定は、専任教員任用昇任規則第3条第1項第3号から第6号までに規定する手続を経なければならない。この場合において、同項第3号中「学部長等」とあるのは「分属先の学部等(以下「分属学部等」という。)の長」と、同項第3号及び第4号中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同項第5号中「学部長等は、専任教授会」とあるのは「分属学部等の長は、当該分属学部等の専任教授会」とする。

5 専任教員任用昇任規則第3条第1項第4号の審査委員会については、同規則第4条の規定を準用する。この場合において、同条第1項中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同条第2項本文中「当該学部等」とあるのは「分属学部等」と、同項ただし書中「当該学部等」とあるのは「当該分属学部等」と、「他学部」とあるのは「分属学部等以外の学部」と、同条第4項中「各学部等」とあるのは「分属学部等」と読み替えるものとする。

(センター助教の雇用契約の契約期間等)

第12条 センター助教の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助教に関する就業規則の定めるところによる。

(センター助手)

第13条 センターの助手(以下「センター助手」という。)は、学校法人青山学院助手に関する就業規則(以下「助手に関する就業規則」という。)の定めるところにより雇用され、センターに所属する本学の専任教員とする。

(センター助手の職務)

第14条 助手に関する就業規則第4条第3項の規定によるセンター助手の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

- (1) 第3条に規定するセンター事業に係る業務
- (2) 前号に規定するもののほか、センター長が必要と認めた業務

(センター助手の資格)

第 15 条 センター助手は、助手に関する就業規則第 5 条第 1 項の規定により、専任教員任用昇任規則第 2 条第 5 項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

2 前項に規定するもののほか、助手に関する就業規則第 5 条第 2 項の規定によるセンター助手の資格は、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する者とする。

(センター助手の雇用手続)

第 16 条 センター助手の雇用は、次項から第 4 項までの規定による。

2 センター長は、センター助手の候補者の雇用が適当であると認めるときは運営委員会の審議を経て、学長に、センター長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。

3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。

4 候補者の雇用の決定は、前項の規定により学部長会の審議を経た後、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得なければならない。

(センター助手の雇用契約の契約期間等)

第 17 条 センター助手の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助手に関する就業規則の定めるところによる。

(運営委員会の構成)

第 18 条 運営委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) コーディネーター
- (4) 本学の専任教員の中からセンター長が指名する者 若干名
- (5) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者
- (6) 学術情報部長
- (7) 学術情報部図書課長

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する外部の専門家(以下「外部の専門家」という。)若干名を委員として委嘱することができる。

3 第 1 項第 4 号及び第 5 号並びに前項に規定する委員の任期は、1 年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

5 運営委員会に委員長 1 名を置き、第 1 項第 1 号に規定する委員をもってこれに充てる。

(運営委員会の招集、開催、表決数等)

第 19 条 運営委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 運営委員会は、年 2 回以上定期的に開催する。ただし、委員長が必要と認めるときは、随時開催することができる。

- 3 運営委員会の開催は、委員の3分の2以上の出席を必要とする。
- 4 運営委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。
- 5 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(運営委員会の審議事項)

第20条 運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) センターの運営等に係る基本方針に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) コーディネーターの委嘱、任期等に関すること。
- (4) センター助教及びセンター助手の人事に関すること。
- (5) 前各号に規定するもののほか、実務委員会から付議されたこと。

(実務委員会の構成及び開催)

第21条 実務委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) コーディネーター
- (4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者
- (5) 学術情報部図書課長
- (6) 相模原事務部学術情報課長
- (7) 本学の専任事務職員(総合職)の中からセンター長が指名する者 若干名

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、外部の専門家若干名を委員として委嘱することができる。

3 第1項第4号及び第7号並びに前項に規定する委員の任期は、1年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

5 実務委員会は、センター長が必要に応じて招集し、議長となる。

6 センター長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(実務委員会の業務)

第22条 実務委員会は、次の事項について協議し、その執行に当たる。

- (1) センターの事業計画等に関すること。
- (2) センターが行うアカデミックライティング教育に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (3) センターの予算の執行に関すること。
- (4) 前3号に規定するもののほか、センターの運営等に必要なこと。

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項の規定による協議の結果を、運営委員会に報告する。

(所管)

第 23 条 この規則は、学術情報部図書課が所管する。

2 センターの運営等に係る事務は、学術情報部図書課及び相模原事務部学術情報課が所管する。

(改廃手続)

第 24 条 この規則の改廃は、運営委員会、図書館委員会及び学部長会の意見を聴いた後、常務委員会で協議し、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2017 年 5 月 26 日から施行する。

附 則(2018 年 6 月 18 日)

この規則は、2018 年 6 月 19 日から施行し、2018 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(2019 年 3 月 28 日)

この規則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(2021 年 1 月 28 日)

この規則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

アカデミックライティングセンター (2023)

一年次報告書

2025年3月発行

発行者 青山学院大学アカデミックライティングセンター

発行所 青山学院大学図書館

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

電話 03-3499-1402